

4歳児の個の育ちと仲間関係の育ち・協同性の芽生え

認定こども園ほしおきガーデン 星の子幼稚園 大徳 佳子

目白大学 人間学部 子ども学科 松永愛子

1. 本研究の目的と方法(1)目的

なぜ個の育ちと仲間関係の育ちをとらえるのか

遊びを中心とした保育

子どもの姿

- ・子ども一人の遊びのイメージが、集団の遊びに影響を与えたり、集団の遊びのイメージが一人の子どもの遊びへ影響を与え、次第に目的のもとに協力し合う仲間関係が育つことがある。
- ・子ども達はお互いに刺激しあいながら、新たな遊びの目的を自分達で見つけていく。

保育者の援助

- ・保育者が、子どもの姿の複雑さを読み解き、援助を行うと、遊びが深まり、広がる。
- ・子どもに必要な経験をもたらすことができる。

➡4歳担任、大徳先生が書いたカズマ君(仮名)の事例を通して、「子どもの姿」や「保育者の援助」の課題を検討

➡教師主導型保育を40年以上してきたが、遊び中心型保育へ転換を目指して5年目の星の子幼稚園の現在の事例。

➡ディスカッションの場で、先達の実践者からのご意見をいただきたい。
同時に教師主導から、遊びを中心とした保育へ転換を目指す園がおられましたら、意見交換をさせていただきたい。

1. 本研究の目的と方法(2)方法

なぜ個の育ちと集団の育ちをとらえるのか

動画前半

- ・松永は、「教師主導型」から「遊び中心型」の転換過程を追う研究をしたいと思い、星の子幼稚園の観察、研修をさせてもらっています。
- ・本動画にて、保育者の書く保育記録等の分析からわかってきた「保育方法」や「遊びの質の変化」を話します。

動画後半

- ・大徳は、4歳の担任をしています。本動画にて、2022年4月～7月のカズマ君(仮)の事例を話します。
- ・加えて、カズマ君(仮)の事例記録を配布します。事例記録は、本動画よりも密な情報が詰め込まれています。

➡大徳先生の「事例記録」も是非読んでみてください。

➡お気づきの点、ご意見、ディスカッション前でもOKです。ぜひ、お聞かせください！ Matsunaga@mejiro.ac.jp(松永)

目次 4歳児の個の育ちと仲間関係の育ち・協同性の芽生え

1. 星の子幼稚園の概要

クラス数、園児数、周囲の環境等

2. 遊び中心型保育の始まり(2017年まで)

保育方法の変化

3. 遊び中心型保育の深まり (2018年～2021年)

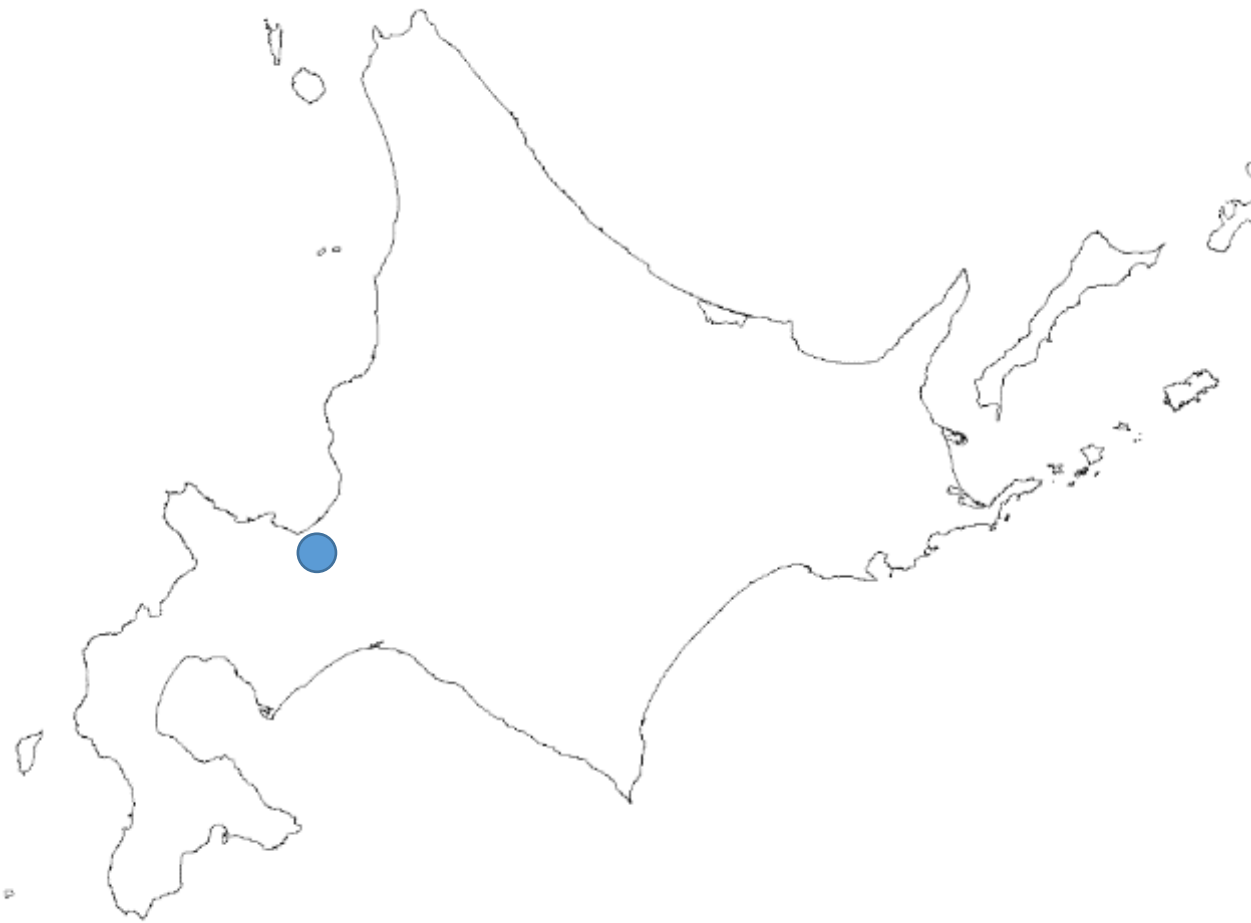
遊びの質の変化ー保育者の3つの葛藤ー

4. 【大徳先生】保育者と子どもの相互関係の中で遊ぶ保育の実際(2022年)ー本編ー

5. 【大徳先生】保育者と子どもの相互関係の中で遊ぶ保育の実際(2022年)ーNG集ー

6. まとめー遊びの豊かさが支える個の育ちと集団の育ちの密な関係性ー

住所: 北海道 札幌市
(札幌駅と小樽駅のあいだ)



⇒ 海と川と山が近くにある 自然豊かな環境







1. 星の子幼稚園の概要

クラス数、園児数、周囲の環境等

	クラス数	各クラスの子ども数	各クラスの2号認定数	各クラスの保育者数
0歳	1クラス	約5名		3名＋フリー
1歳	1クラス	約15名		
2歳	1クラス	約15名		3名＋フリー
3歳	3クラス	約25名	約20名	2名＋フリー
4歳	3クラス	約30名	約20名	2名＋フリー
5歳	3クラス	約30名	約20名	2名＋フリー

- ・ 01歳 45歳 壁の無い隣接クラス
- ・ 2号認定（各クラス約20名、全体で約180名）
- ・ 園バス4台、8コース、2時間添乗

2. 遊び中心型保育の始まり(2017年まで)

—保育方法の変化—

	約40年間	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
出来事			大徳先生 就任	園庭改築	新園長		子ども園化 園庭大規模 工事
保育内容	一斉活動	1クラスのみ 遊び中心		全クラス 好きな遊び の時間	外遊び 中心	外遊び 中心	室内 コーナー保育 本格開始
松永関わり					出会い	観察	観察と研修

- 上村毅(たけし)先生が新園長に就任
- 室内は、「コーナー保育」に。
- 室内より、外を選ぶ子が多くいた。

⇒様々な方法を試した結果、ある程度、今に繋がる保育方法が整った時期

・(1)環境 ①「保育室」コーナー保育化



⇒「見る一見られる」ことで、子ども同士の学びが起こる



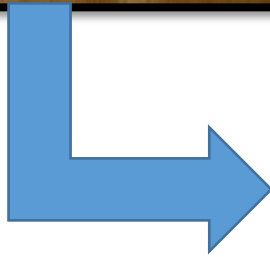
⇒「見る一見られる」ことで、子ども同士の学びが起こる

- (1) 保育方法①「あつまりの時間の保育方法」



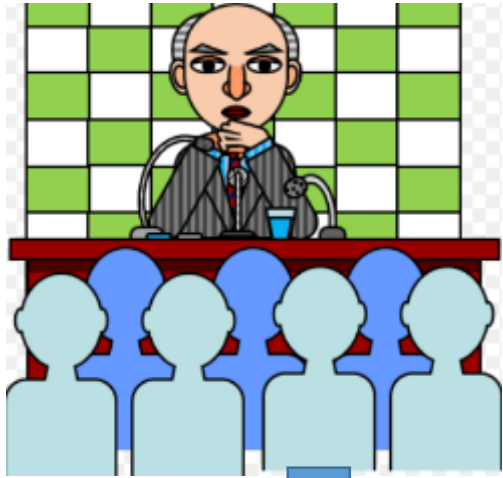
⇒「見る一見られる」ことで、子ども同士の学びが起こる

・(1)保育方法 ②「行事の進め方」

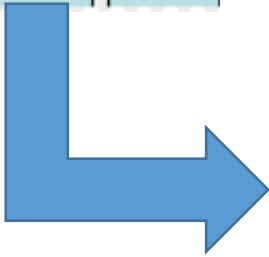


⇒「見る一見られる」ことで、子ども同士の学びが起こる

・ (3) 振り返り方法 ①会議のしかた



イメージ



⇒行事についてどこを変えてどこを残すか、たくさん話し合った

一保育方法の変化一

ドキュメンテーション

[illegible]

⇒ネットで共有される。先生同士の学びが起こる

3. 遊び中心型保育の深まり (2018年～2021年)

遊びの質の変化ー保育者の3つの葛藤ー

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
出来事	新園長		園庭工事			
保育内容	外遊び 中心	外遊び 中心	室内コーナー 本格化			
記録				10days週案	10days週案	10days週案
	ドキュメンテーション	ドキュメンテーション	ドキュメンテーション	ドキュメンテーション		
MTG	行事MTG	行事MTG	×	週・月・期MTG	週・月・期MTG	週・月・期MTG

葛藤①「子どもが選ぶ遊びを大事にしたい(記録15回/82日)」が、「どこまで関わっていいのか(記録15回/82日)」

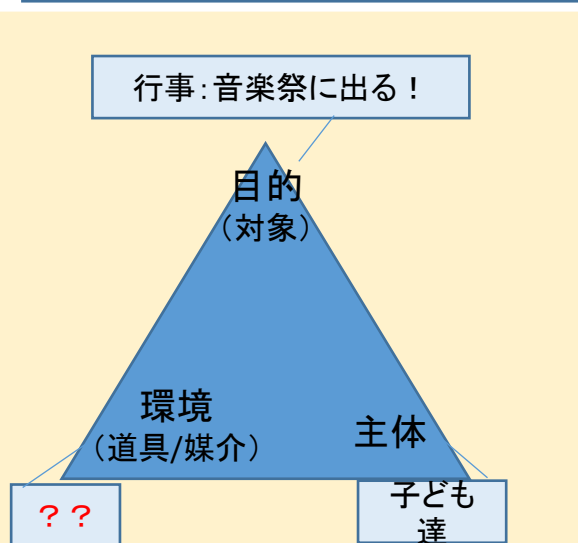
5歳児	・探求的な遊びのモデルのいない園庭に出ていくだけでは、協同性が育ちにくかった。 ・室内では、個の技術を競う遊びが多く(コマ、けん玉)、協同性が育ちにくかった。
保育者	・園庭に散在し、動き回る、子ども一人一人の「子ども理解」が難しかった。 ・カリキュラムを意識し、「子ども理解」をもとに「環境構成」をする力が上がらなかった。

→実態として、行事前は、保育者主導になってしまい、保育者も子どもも苦しかった。
「遊びから行事につなげたい」という思いが生まれた。

外遊び中心時代

2018年

子どもが決めたのに、
子どもだけでできない



子ども達は、目的のために、
どう環境と関わったら
よいのかわからなかった。

保育者の、子ども理解から
環境構成する力が十分
ではなかった



⇒ 行事直前、時間が足りずに、トライアングルと、鍵盤
ハーモニカを同時に練習する光景（先生もつらい涙）

3. 遊び中心型保育の深まり (2018年～2021年)

遊びの質の変化ー保育者の3つの葛藤ー

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
出来事	新園長		園庭工事			
保育内容	外遊び 中心	外遊び 中心	室内コーナー 本格化			
記録				10days週案	10days週案	10days週案
	ドキュメンテーション	ドキュメンテーション	ドキュメンテーション	ドキュメンテーション		
MTG		行事MTG	×	週・月・期MTG	週・月・期MTG	週・月・期MTG

葛藤②「興味関心が続く遊び」を大事にしたいが、「援助しても遊びが続かない(記録8回/82日)」

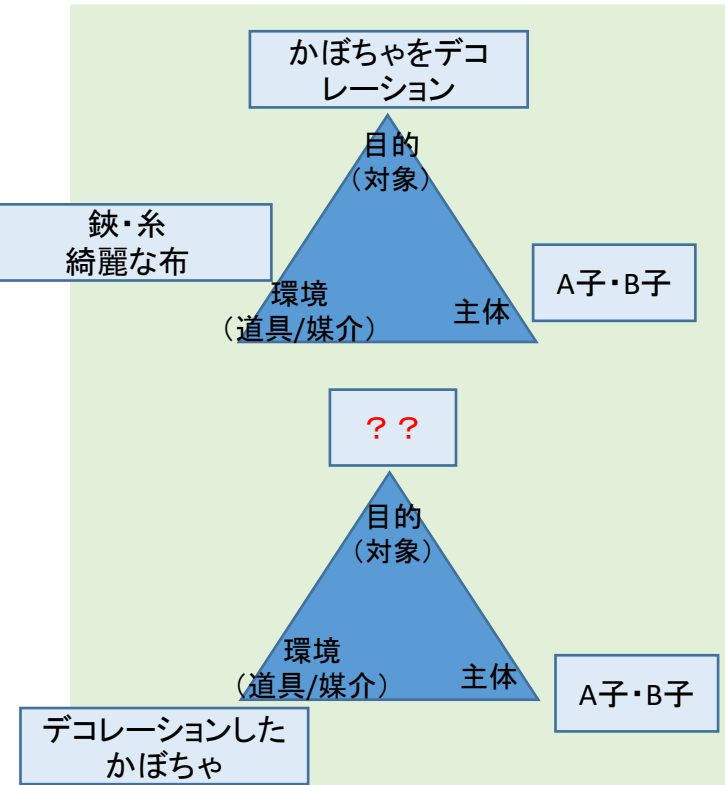
5歳児	・遊びの目的を見つけにくかったり、見つけても一時的なことが多い ・紙ヒコーキ、折り紙等、幼く感じる遊びが多かった
保育者	・「子ども理解」をして興味関心を読み取ろうとしていた。 ・一方で、保育者からの「知識・技術・文化の伝達」は少なかった(絵本、図鑑、製作技術等)。

➡「カリキュラム」をもとに「ねらい」を考えるMTG、子ども達に伝えたい知識・技術・文化のアイデアを話し合えるMTGが求められるようになってきた。

「コーナー保育」本格導入時代

2019年

興味を大事にしたいけど
遊びが**持続しない**



遊びの次の目的が見つからない

ねらいをもとに保育者の知識・技術文化の発信が十分ではなかった



⇒ 地域名産のかぼちゃに飾り付けることを思いつきました。そのあと、教室の片隅に...

待望の園庭完成



3. 遊び中心型保育の深まり
(2018年～2022年)

遊びの質の変化ー保育者の3つの葛藤ー

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
出来事	新園長		園庭工事			
保育内容	外遊び 中心	外遊び 中心	室内コーナー 本格化			
記録				10days週案	10days週案	10days週案
	ドキュメンテーション	ドキュメンテーション	ドキュメンテーション	ドキュメンテーション		
MTG		行事MTG	×	週・月・期MTG	週・月・期MTG	週・月・期MTG

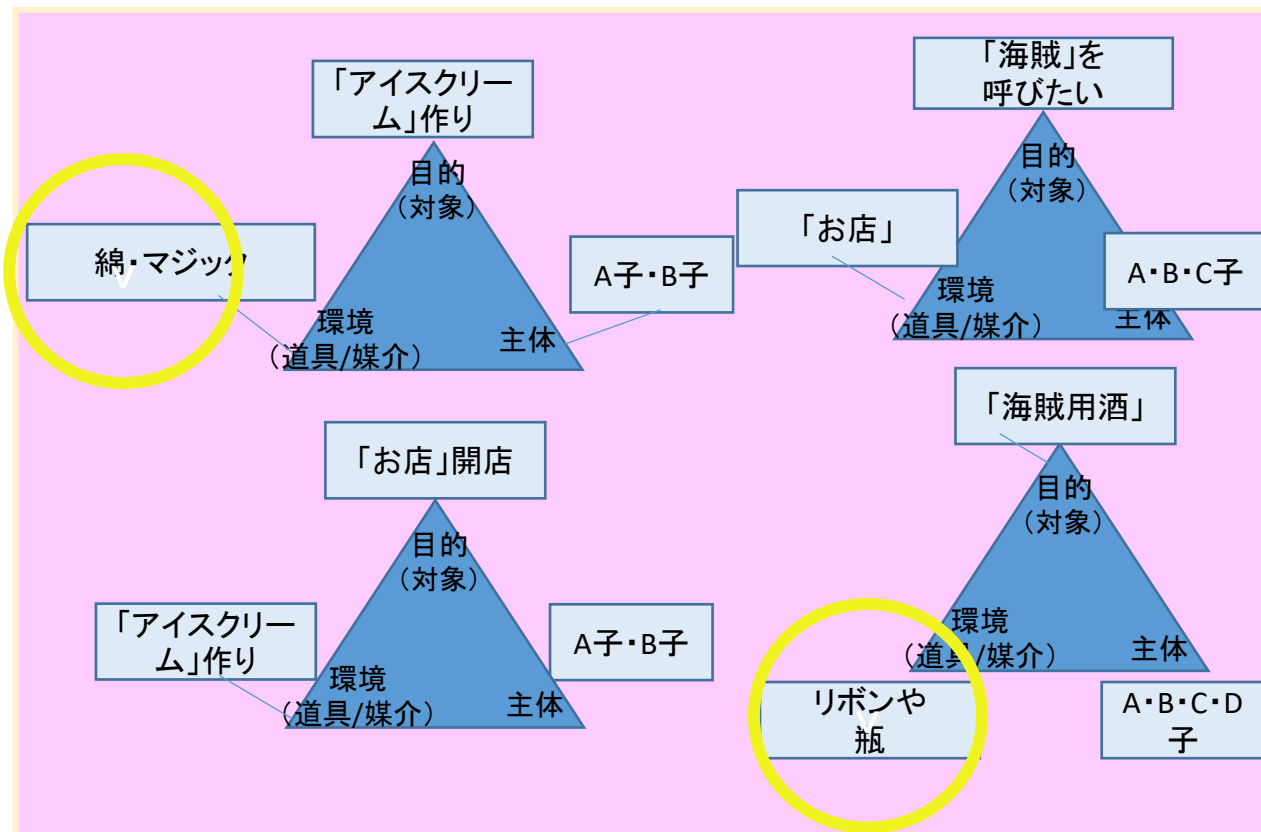
葛藤③「もっと遊びが面白くなるために、しかけてみよう／のってくれるだろうか(記録23回/82日)」

5歳児	・共通のイメージをもとに、遊びと遊びがつながり、続く。(ステージごっこ→演者が集まりフェスへ等) ・時間をかけて試行錯誤する遊びと遊びがつながり、続く。
保育者	・「子ども理解」をして興味関心を読み取ろうとしていた。 ・保育者からの、知識・技術・文化を伝える方法を常に試みていた。

➡保育者にとって、子どもの遊びは、「保育者と子ども、子ども同士の相互関係の中で表れる」ととらえられるようになってきた

「コーナー保育」本格導入時代2

しかけてみよう／のってくれるだろうか



環境と関わりながら目的が生まれていく

保育者の幼児理解から環境構成をする力
知識・技術の発信、教材選択の力が表れてきた



2021年



10days記録



	歳児 組	月 日～ 月 日	月のねらい	
担任 ()	担任 ()		2 週のねらい	
幼児の取り組みと援助の反省				
アイデア・メモ				
タスク・決定事項	日 (月)	日 (火)	日 (水)	日 (木)
				日 (金)

タスク・決定事項	日 (月)	日 (火)	日 (水)	日 (木)	日 (金)
アイデア・メモ					
幼児の取り組みと援助の反省					
残った課題				残った願い	

月のねらい
週(10日)のねらい

幼児の姿と援助反省

環境構成のアイデア

タスク・決定事項

残った課題と
新たな願い

⇒遊びの連続性、ねらいと反省が意識されやすくなった

4 歳児 あじさい組	6月28日 ~ 7月9日 月のねらい	○ 1年中の長い友達と一か月に会える喜びを表現していく ○ 自分の思いを上手に表現できるようにする
アイデア・メモ 具体的には決まっていなくて、こうしてみたい、というメモを書く。 (例: おばけの絵本を読む) タイトルや時期が決まったら、下欄に書くか付添はる。 タスク 行事、決定事項等、付添で仮に入れておいて、後で書き入れてもよい。	2週 のねらい ○ 内容	◎ 暑中いっしょに遊ぼうとアイディアを出し、面白く表現していく。 ○ 暑中の思い出を言葉で伝えようとする。 ○ 暑中の思い出を言葉で伝えようとする。 ○ 暑中の思い出を言葉で伝えようとする。
幼児の取り組みと援助の反省	＜朝＞ おはようございます。今日は暑い日です。夏休みが始まりました。お友達と遊ぼうと思います。 ＜海＞ おはようございます。今日は暑い日です。夏休みが始まりました。お友達と遊ぼうと思います。	＜泥団子作り＞ 今日は暑い日です。夏休みが始まりました。お友達と遊ぼうと思います。 ＜泥団子作り＞ 今日は暑い日です。夏休みが始まりました。お友達と遊ぼうと思います。
成予 1 想 さ れ る 活 動 予 想 タ ス ク ・ 決 定 事 項 タ ス ク ・ 決 定 事 項 タ ス ク ・ 決 定 事 項	28日(月) 29日(火) 30日(水) 7月1日(木) 2日(金)	28日(月) 29日(火) 30日(水) 7月1日(木) 2日(金)

3. 遊び中心型保育の深まり (2018年～2022年)

遊びの質の変化—保育者の3つの葛藤— まとめ

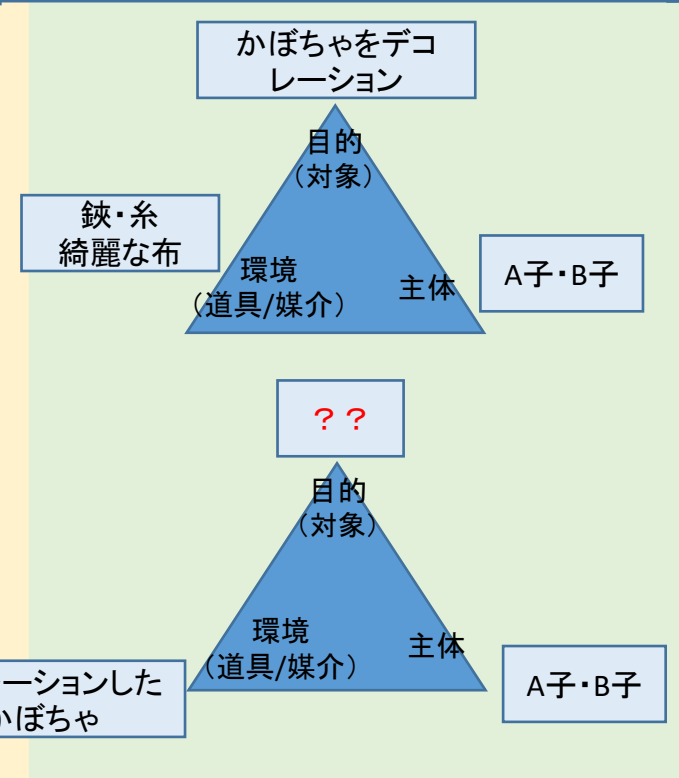
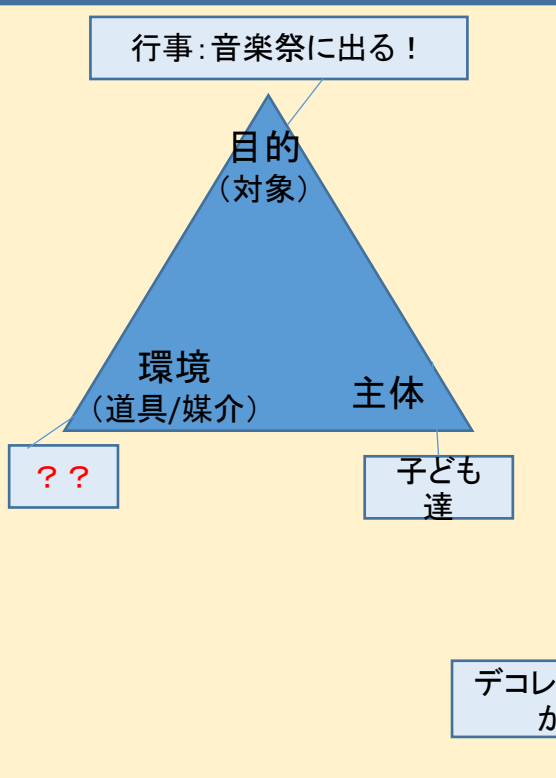
外遊び中心時代

「遊び保育論(コナー保育)」本格導入時代

子どもが決めたのに、
子どもだけでできない

遊びが持続しない

しかけてみよう／のってくれるだろうか

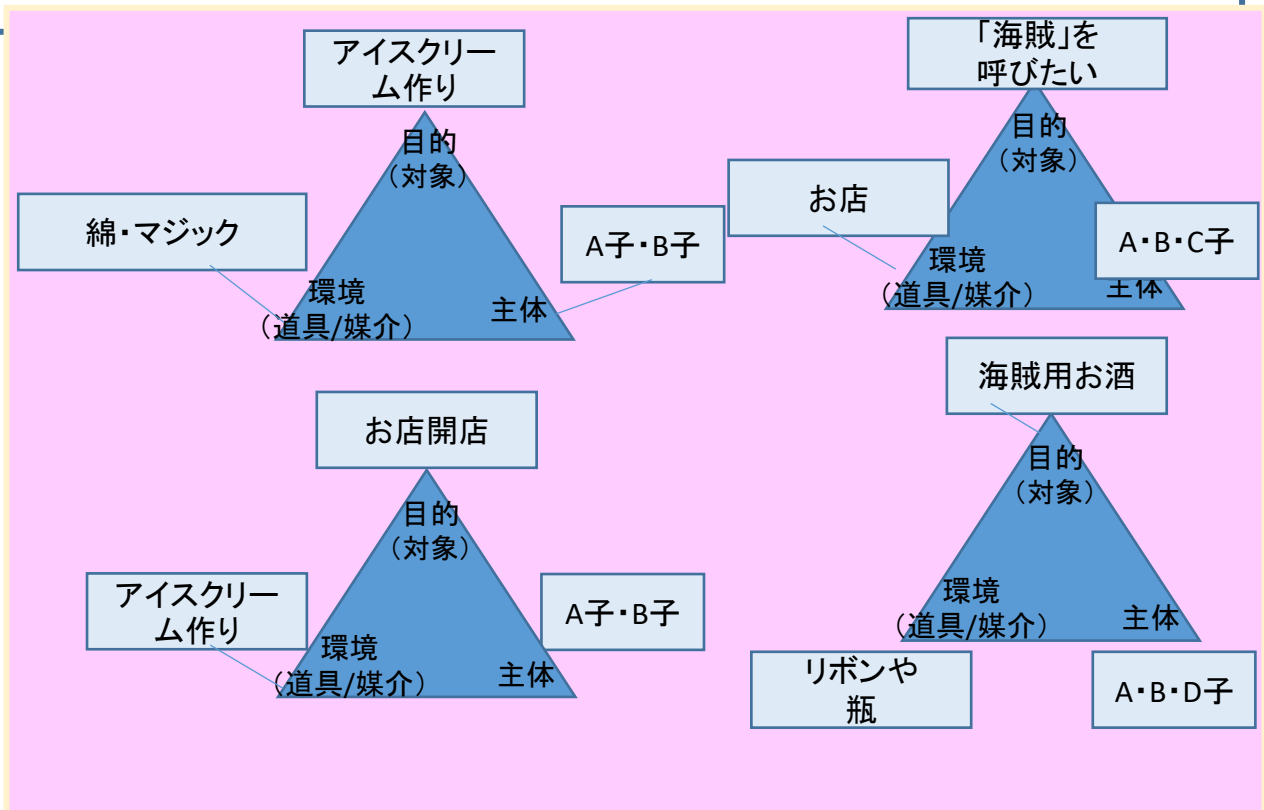


子どもの協同性に必要な
経験が積みあがらない

保育者の幼児理解と
環境構成の力が必要

遊びの次の目的が見つからない

保育者の知識・技術の発信、
教材選択の力が必要



環境と関わりながら目的が生まれていく

保育者の幼児理解と
環境構成の力の表れ

保育者の知識・技術の発信、
教材選択の力の表れ

まとめ 2014年～2022年を通じた変化の背景

M幼稚園
プログラムほぼ無しの園

Mこども園
プロジェクト保育

公立
幼稚園

国立幼稚園

C保育園
プロジェクト保育

H保育園小規模園

見学

遊び保育論
(小川博久)

レッジョ・エミリア
(C.リナルディ)

三層構造論
(久保田浩)

対話的保育論
(加藤繁美)

実践理論

環境図記録

ラーニングス
トーリー

ドキュメンテー
ション

Story Park

バスキャッチ

10days記録

トピックウェブ

記録

S先生研修

K先生研修

T先生研修

K先生研修

O先生研修

H先生研修

研修

➡「上村園長は、様々な理論、記録、園見学、研修の機会を先生たちに与えていたが、何を選ぶかは、先生たちにゆだねていた」(複数の他園園長の談)

まとめ 2014年～2022年を通じた変化の背景

ゆだねられた先生たちは、実践しながら、主体的に選んでいった。

結果、【偶然に】一貫した理論・道具・事例がそろった。
(偶然のように見える必然だったのかもしれないが)

理論	保育実践の理論 (話し合いの共通言語)	遊び保育論 見る一見られる 遊びの伝承	小川
道具	具体的手立て	(環境構成)コーナー保育/製作コーナー/わらべ歌 (記録法)10デイズ記録	小川 河邊
事例	行動目標・評価 (実践改善につながる理想のイメージ)	実践研、保笑会 (定期的な事例発表 & 検討)	河邊

➡一貫した「理論・道具・事例」の3点が【偶然】強い幹として残り、保育方法を変える力、遊びの質を深める力になっていったのでは？

まとめ 2014年～2022年を通じた変化の背景

遊びを中心とした保育

子どもの姿

- ・子ども一人の遊びのイメージが、集団の遊びに影響を与えたり、集団の遊びのイメージが一人の子どもの遊びへ影響を与え、次第に目的のもとに協力し合う仲間関係が育つことがある。
- ・子ども達はお互いに刺激しあいながら、新たな遊びの目的を自分達で見つけていく。

保育者の援助

- ・保育者が、この複雑さを読み解き、援助を行うと、遊びが深まり、広がる。
- ・子どもに必要な経験をもたらすことができる。

→目的をもう一度述べることで、まとめとします。大徳先生の章へ！

引用文献

小川博久「遊び保育論」(2010)萌文書林

小川博久「遊び保育のための実践ワーク」(2014)萌文書林

川田学「エコロジカルシステムとしての「保育」の評価試論」(2018)保育学研究

「遊びの三角形」理論が掲載されています

河邊貴子「遊びを中心とした保育ー保育記録から読み解く援助と展開ー」

(2005)萌文書林